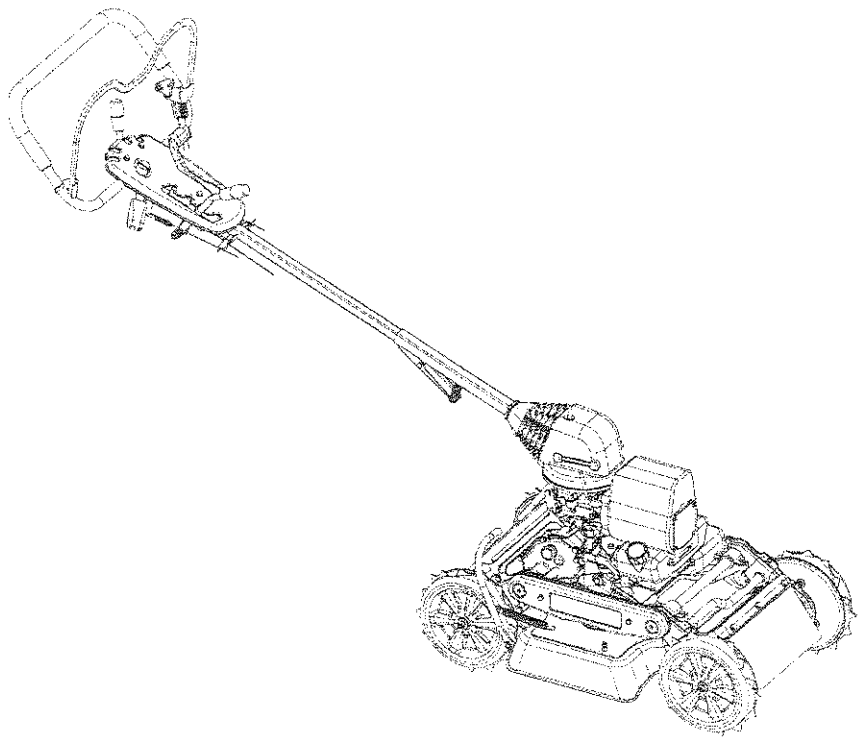
# 取扱説明書

自走式傾斜地草刈機

4WD

## AZ550



0241-70005

●取扱説明書本文中にでてくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
●本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
●取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。

KIORITZ

## 《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用の前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

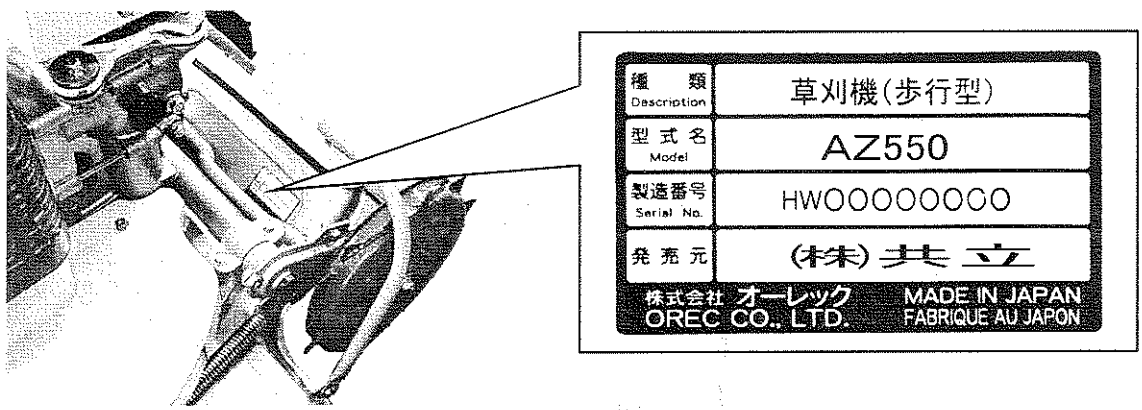
尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

## 《本製品の規制について》

本製品は、**農業用の草刈機**として開発しておりますので、これ以外の用途（レンタル等、作業者が特定されないような使い方）には使用しないで下さい。この場合には保証の対象外となる場合があります。(但し、腰の弱い地を這うような草・ツル等については刈取れない場合もあります。)

## 《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後１ケ年間、又は５０使用時間(専業としての使用については６ケ月間、もしくは５０使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。ご使用中の不具合及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『**商品型式名と製造番号・搭載エンジンの型式名**』を併せてご連絡下さい。




「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年と致します。但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただく場合もあります。

## 《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

| シンボルマーク | 定　　義 |
|---|---|
| ⚠ 危　険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
| ⚠ 警　告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
| ⚠ 注　意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。 |
| 参　考； | 操作、保守において知っておくと便利な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。 |

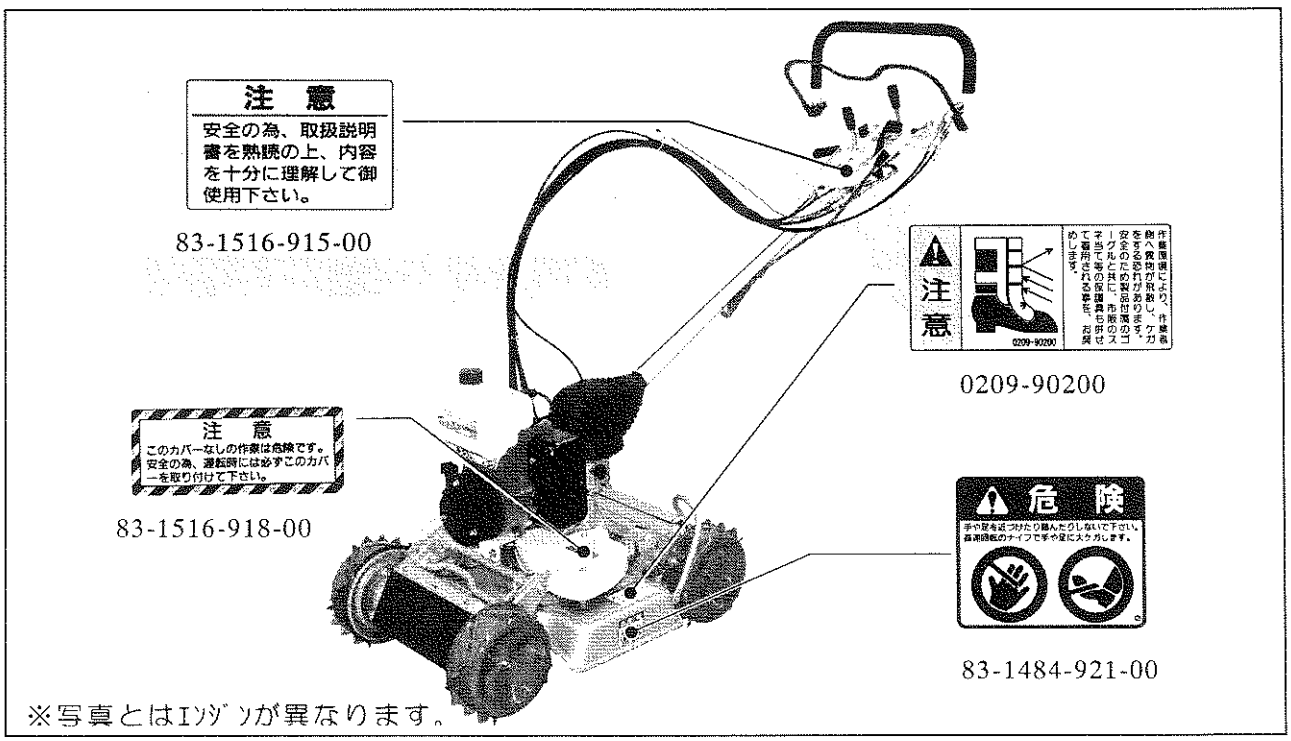
## 《安全に作業をするために》 …重要危険項目…

### （１）警告表示マーク

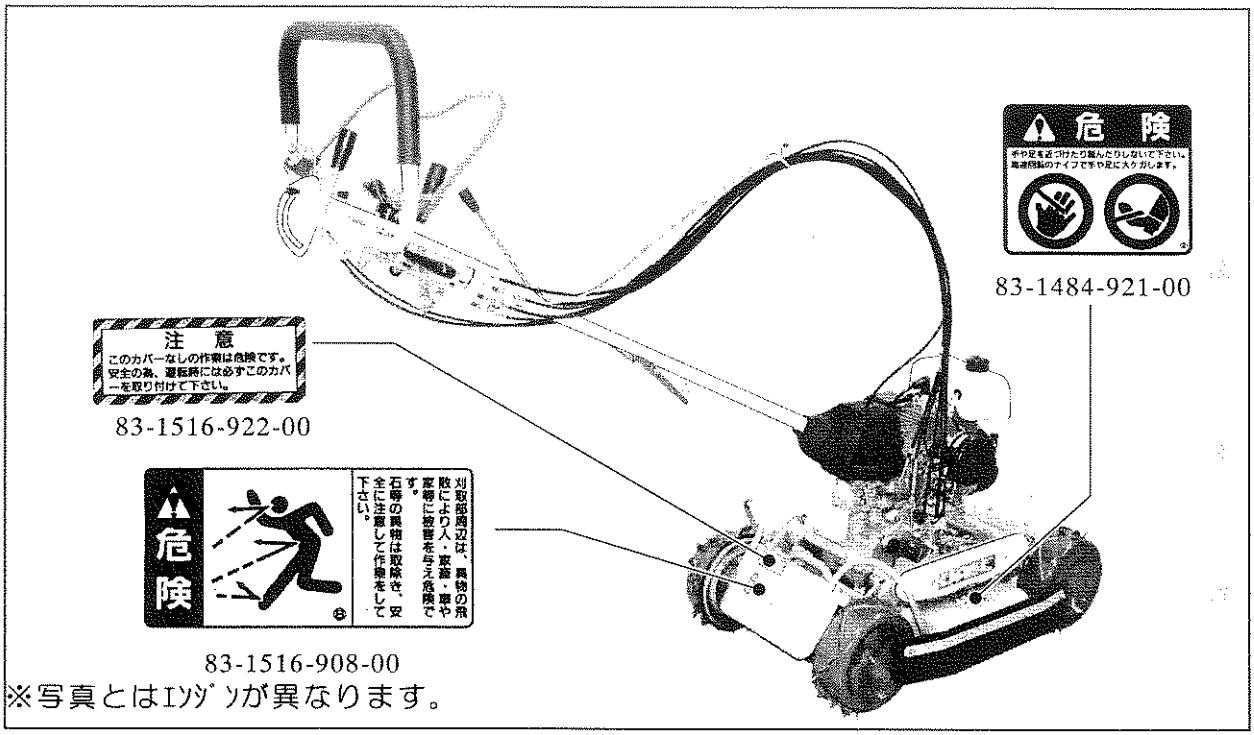
・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており、本体に貼付されています。ご使用の前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

●…危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常に明確に識別できるようにしておいて下さい。　　〈29 頁…消耗品明細参照〉

●…本機は混合ガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい




※写真とはｴﾝｼﾞﾝが異なります。



※写真とはｴﾝｼﾞﾝが異なります。

## （２） 作業前の注意

・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。

・所有者以外の人は使用しないで下さい。

・過労、病気、薬物の影響、その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。

⚠ 機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止め(スパイク)のついた安全靴や帽子又は、ヘルメット、防護眼鏡、スネ当て等を必ず使用して下さい。

・作業を開始するときには、周囲に人や動物、車両等が無いことを確認し、作業中は半径１０m以内にこれらのものを近付けないで下さい。

⚠ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。事故防止のためこれらのカバー類、部品は必ず装着した状態で使用して下さい。

・必ず、タイヤ取付けボルトが確実に締まっているか点検し、緩んでいるときは、しっかり締めて下さい。

⚠ ナイフの脱落は危険です。ナイフのセットボルト・ナットをしっかり締めて下さい。又、古いものは新しいものに取換えて下さい。

⚠ ナイフ交換のための開閉カバーがあるものは、開いたままの使用は危険です。必ず閉めた状態で使用して下さい。

⚠ 小石やその他の異物は事前に取り除き、障害物はその位置を確認した後に目印となる物をつけた後で作業を始めて下さい。又このような圃場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行って下さい。ナイフが欠けたり石等の異物が飛散し危険です。

⚠ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内ではエンジンを始動させないで下さい。

・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。

・ナイフクラッチが「切」の時、ナイフが確実に止まっているか点検し、もし少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止しベルト押え、ワイヤ調整をして下さい。
・５０°を超える勾配での作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が１５°を超えると危険です。安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用下さい。
⚠ 斜面で不要に走行クラッチを切ったり、変速レバーを中立にすると暴走し危険です。斜面では、これらの操作をしないで下さい。
・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。十分に安全な平坦地を走行して下さい。
⚠ 斜面で本機の上(山)側にいると足を滑らせた場合、本機の下側に体が入ることがあり危険です。特に雨上がり時等の湿った斜面は滑りやすく特に危険です。このような場合には圃場が乾くまで作業を控えて下さい。
⚠ 作業者は必ず足場をしっかりと確保し、本機と同一斜面及び本機の下(谷)側には＊特別な場合を除き立たないようにして下さい。（＊**20°～50°**までの急斜面での作業）
・暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには使用しないで下さい。
・安全作業の妨げとなるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ナイフカバーの切断等)は絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては、一切の責任を負いかねます。

### （３） 燃料給油時の注意

・本機には必ず２サイクル用燃料をご使用ください。
・給油中は火気厳禁です。引火爆発の危険があります。
・燃料をこぼさないように注意し、もし燃料が周辺にこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。
⚠ 火傷や火災の危険がありますので給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

### （４） 始動時の注意

・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
・走行クラッチ、ナイフクラッチを「切」位置にしてから始動して下さい。
・回りに人や動物や車両等がいない事を確認し、また周囲の安全を確認してから始動して下さい。

### （５） 積み降ろし時の注意

〈14 頁…参照〉

・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは前進で、降ろすときには後進位置でいずれも「🐢」位置でゆっくり行い、その他の位置には絶対入れないで下さい。
・移動時、ハンドルは正位置に戻して下さい。

## （６） 作業中の注意

・ 安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

⚠ *健康のため、１時間以上継続して製品を使用することは避けてください。必ず１時間毎に１０分程度の休息を取るようにして下さい。*

⚠ 排気マフラは高温となります。火傷をしないよう手等を近づけないで下さい。

・刈取りクラッチは、人(子供含む)や動物がいない事を確認し、安全に十分注意した後に操作して下さい。(該当製品)

・燃料給油口が谷側に向くような使い方はしないで下さい。燃料がこぼれて危険です。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・調整して下さい。

⚠ 刈取部全周にわたり、石等の異物が飛散し大変危険です。人や車、建物などから離れて十分ご注意の上作業して下さい。保護眼鏡を必ず装着し、必要に応じてスネ当て等の保護具も着用下さい。

・凸凹の多い圃場では刈高さを高くして使用して下さい。

⚠ 回転部分は危険です。とくにナイフカバー内は危険ですので、運転中は身体を近付けないで下さい。

⚠ 冷却風の吸込口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も同時に行って下さい。

⚠ 石等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に目印等をつけ、安全のため通常よりも高刈りで作業をして下さい。ナイフが欠けたり、石が手前に飛んできたりして危険です。

・作業中、石・木株等に当たったときは、直ちにエンジンを停止し、ナイフの回転が停止した事を確認後、欠けや曲がりの有無を調べ必要であれば修正・交換をして下さい。

・刈取方向を切り替える時には、その前後方向の安全性を確認した後に行なって下さい。

## （７） 作業終了後の注意

・本機より離れる時は、必ずエンジンを止め、安全のため燃料コックは必ず閉めて下さい。（該当製品）

## （８） 点検・整備時の注意

・機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

⚠ ベルトやナイフ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバーの破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

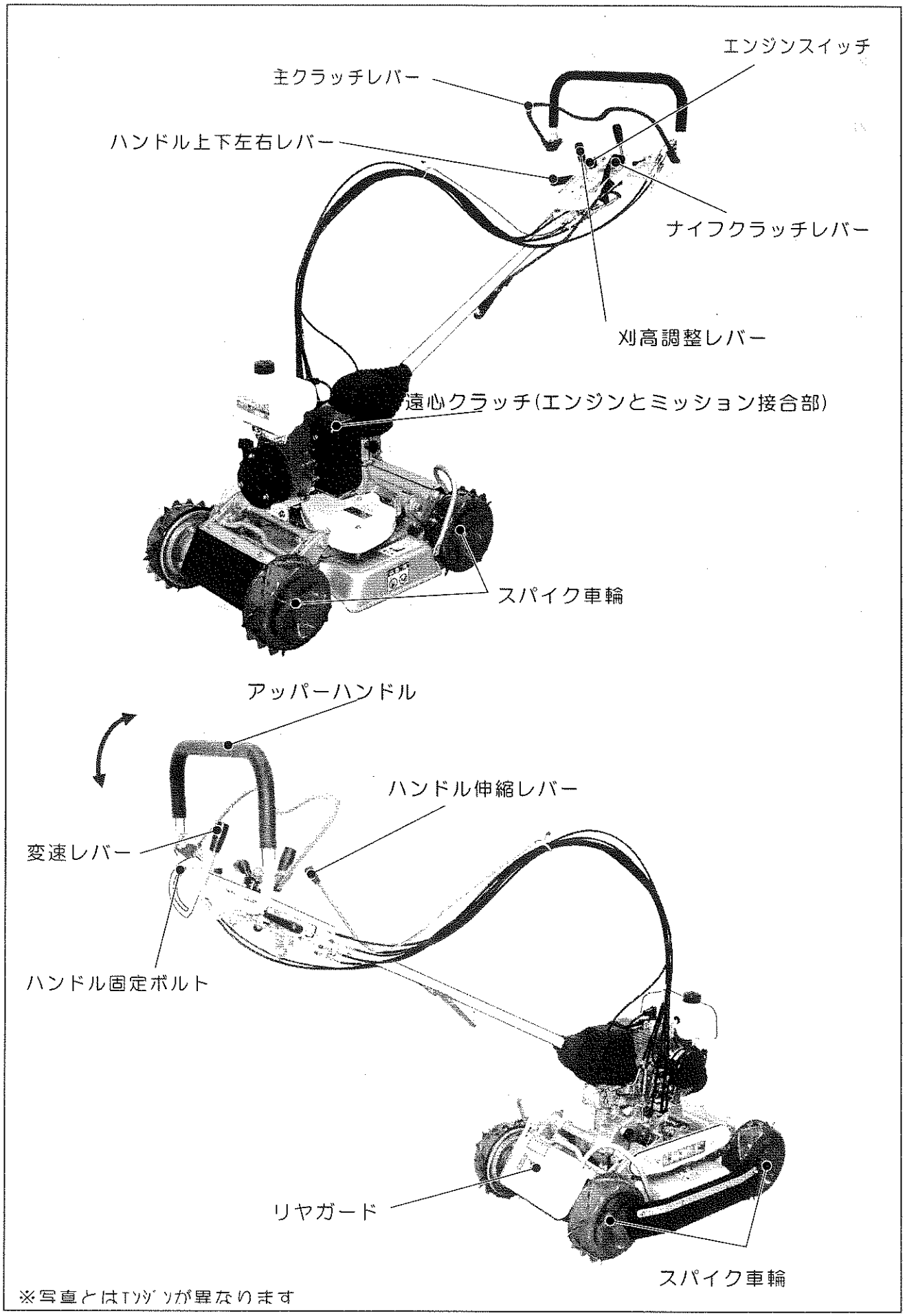
・ナイフセットボルトは安全のため、ナイフ交換の際には一緒に新品と交換して下さい。

⚠ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。３年ごと、又傷んだ時には、締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・走行クラッチ・ナイフクラッチ・ブレーキ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行って下さい。（該当製品）

・点検、整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

《各部の名称》




※写真とはﾃﾝｼﾞｿが異なります

《各部のはたらき》

①主クラッチレバー

エンジンスロットルの開閉と、走行の入⇔切を行ないます。

レバーを徐々にハンドル側に引いていくと、まずエンジン回転が上昇し、次にハンドルと一緒に握ると走行クラッチが「入」位置となるダブルアクションタイプのデッドマン式クラッチレバーを採用しています。ハンドルから手を離せば走行は停止し、エンジン回転もアイドリング状態となります。

②ナイフクラッチレバー

エンジンからナイフへの動力を断続させます。レバーを前方に倒すと「入」の状態でロックします。手前に引くと「切」位置の状態になります。

③変速レバー

走行速度の選択時に操作します。変速は前後進それぞれ「」、「」の２速です。

変速は走行クラッチレバーから手を離し、本機を停止させた後操作して下さい。

「」位置ではゆっくりと、「」位置ではスピーディーな作業が行えます。

前後進しながら作業が可能であり、ナイフは常に進行方向に対して内向きに回転しますので、刈草の飛散を最小限に防止します。

### ⚠ 注意

変速レバーは走行クラッチレバーから手を離し、エンジン回転が十分に落ちた後に操作して下さい。走行しながら又はエンジン回転が高いまま操作を行うと、ギヤ鳴りがして変速できないばかりでなく、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。

④ハンドル伸縮レバー

ハンドルの長さを１５センチの幅で４ケ所固定することができます。

レバーを握り、ハンドルを伸縮させ、レバーから手を離してハンドルをロックして下さい。

斜面の長さに応じて使い分けることができます。

⑤ハンドル固定ボルト

ハンドル握り手部分の立ち上がり角度を調整します。調整後、確実に固定して下さい。

### ⚠ 注意

伸縮レバー及びハンドル握り手取付ボルトの操作は、本機が停止した状態で行なって下さい。作業もしくは走行しながらの操作は危険です。

⑥スパイク鉄車輪（トルクリミッター装備）

本機は傾斜地及び悪路での走破性を考慮し、四輪駆動(4WD)方式のスパイク鉄車輪を採用しています。車輪に過負荷がかかった場合、チェンケースを保護するためにトルクリミッターが作動します。（過負荷がかかった側の車輪の回転が止まります。）

⑦遠心クラッチ

エンジンの回転は遠心クラッチによりミッション側に伝達されます。

⑧刈高調整レバー

刈高さの調整を行います。調整は４段であり、低い方からそれぞれ

| 刈高調整レバー位置 | | 刈高さ(mm) |
|---|---|---|
| ① | 低 | ３５ |
| ② | ▼ | ４７ |
| ③ | 中 ▲ | ５９ |
| ④ | 高 | ７０ |

です。

⑨ハンドル上下・左右レバー

作業者の体格、斜面角度等の作業状況に応じてハンドルの高さ、左右の調整をワンレバーで行なうことができます。レバーを手前に軽く引くと、まずハンドル上下がフリーとなり、次に強く引くとハンドル左右がフリーとなります。所要の位置が決定したら、レバーを戻してまずハンドル左右の位置を、次に最後まで戻してハンドル上下の位置をロックして下さい。ハンドル上下は５段階、左右は正位置と右側へ 90° 位置、その間の３ケ所、計５ケ所で固定できます。（安全のため、左側への回動はしないで下さい。異物が飛散し危険です。）

⑩リヤガード（後部と右側に装備）

石等異物の飛散を最小限に抑えます。可動式のガードの内側にはゴム垂れが取り付けられており、異物の飛散を二重に防止してます。

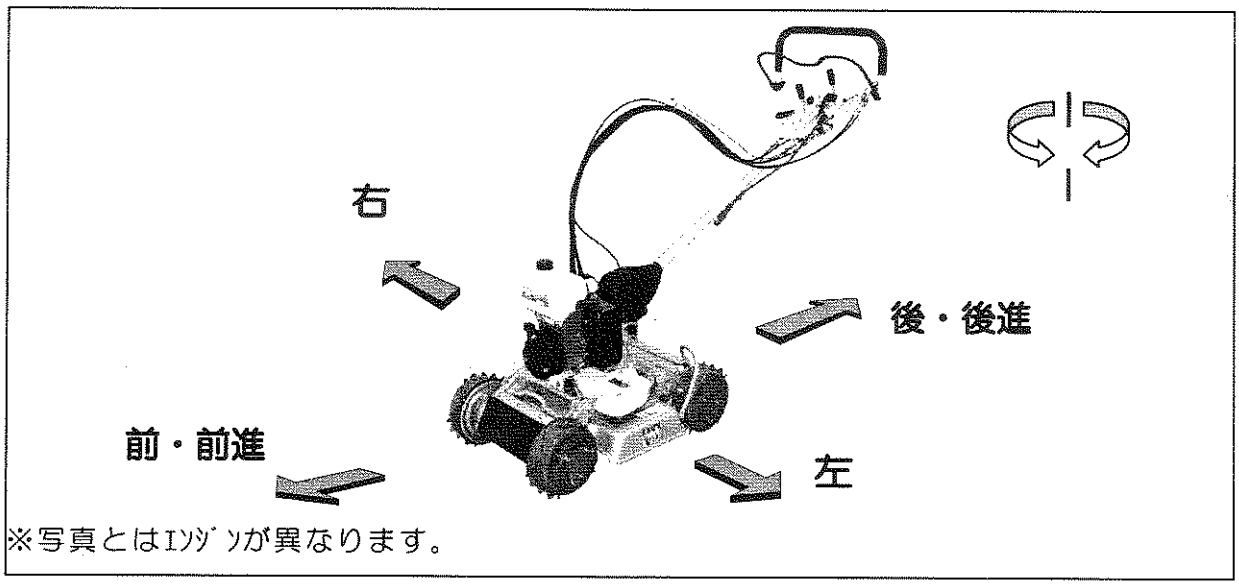
⑪エンジンスイッチ

エンジンの「運転」・「停止」の操作を行います。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のように作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者から見た方向で表します。




※写真とはｴﾝｼﾞﾝが異なります。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈30 頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

⚠ 警告：本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジンの始動・停止のしかた

## ⚠ 危険

①締め切った室内でエンジンの始動及び暖機運転をしないで下さい。
… 有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。

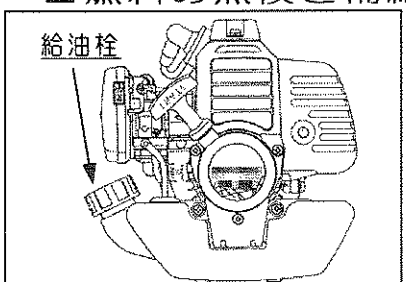
②２サイクルガソリンエンジンを搭載していますので、くわえタバコや裸火照明は，燃料に引火したりして危険です。絶対に行なわないで下さい。

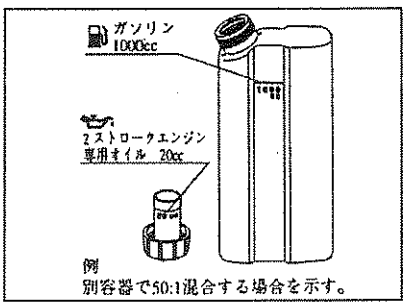
③エンジンの始動時には、各レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

## ⚠ 注意

・ガソリンだけで運転するとエンジンが焼付を起こします。
・エンジンの設定回転をむやみに調整しないで下さい。
・エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいにふき取って下さい。
・ 給油栓側を常に上(山)側に向けて下さい。漏れた燃料に引火する恐れがあります。

■燃料の点検と補給




①燃料を確認して下さい。(燃料混合容器は同梱していません)
燃料はレギュラーガソリンと２ストローク専用オイルを混合した物を使用して下さい。混合比は下記の通りです。

| Engine | 型式 | 混合比 |
|---|---|---|
| メ イ キ | ＴＬ５２ | ２５：１ |
| カワサキ | ＴＨ４８ | ＊５０：１ |

＊これまで通り 25:1 で使用されても問題はありません。

②使用するオイルは必ず JASO 分類 FC 級の２ストローク専用オイルを混合して下さい。

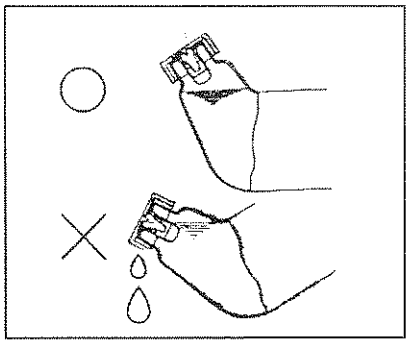
参考 ；２ストローク専用オイルには、この他にも下記の種類があります。

| grade/性能 | 潤滑性 | 清浄性 | 排気煙性 | 排気系閉塞性 |
|---|---|---|---|---|
| ＦＡ | △ | △ | ×～△ | ×～△ |
| ＦＢ | ◎ | ○ | △ | △ |
| ＦＣ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

◎:非常に優れる　○:優れる　△:普通　×:劣る

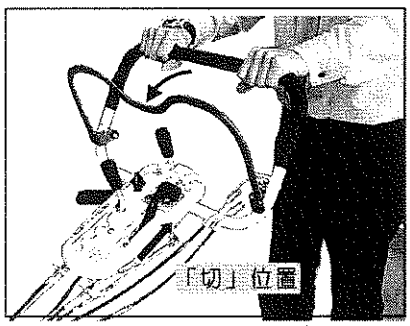
ＦＡ：２サイクルエンジンにとって必用な、最低限の性能を有するエンジンオイル。
ＦＢ：ＦＡに比べて、潤滑性能と清浄性能に優れているエンジンオイル。
ＦＣ：上記の全ての性能が優れているエンジンオイル。

## ⚠ 注意

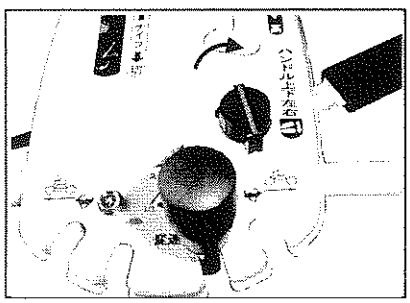


・エンジン運転中や、停止後すぐ(約３～５分間)の熱い間は燃料の給油栓を外したり、燃料の補給をしないで下さい。
・燃料が少なくなったら早めに燃料を補給して下さい。
次の始動が容易になります。
・給油栓が下(谷)側になるような向きで使用しないで下さい。
燃料が漏れ出す恐れがあります。
・燃料補給後は給油キャップを確実に締付けて下さい。
・変質した燃料、誤った混合比の燃料は使用しないで下さい。
始動不良や出力不足等エンジン不調の原因となります。

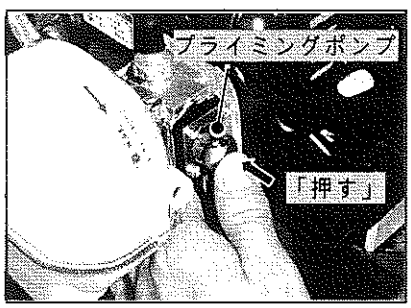
## ■ エンジン始動のしかた



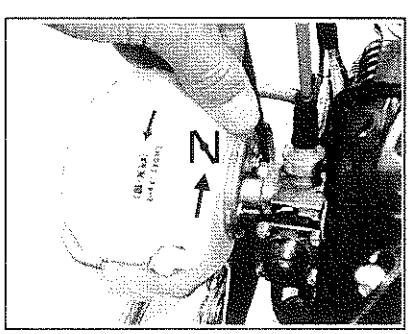

③主クラッチレバーから手を離し、ナイフクラッチレバーは「切」位置にして下さい。



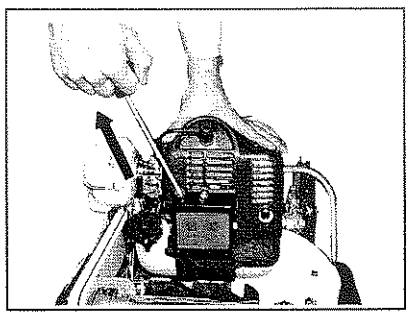
④エンジンスイッチを「入(ON)」位置にして下さい。




⑤プライミングポンプを指で最後まで繰り返し押してください。
（初回１０回以上）
プライミングポンプの操作で燃料を汲み上げ、始動を容易にします。
参考；
搭載エンジンによって操作方向が異なります。




⑥チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にして下さい。
参考；燃料が残っていて且つエンジンが暖まっている時は、
チョークレバーの操作は必要ありません。
※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

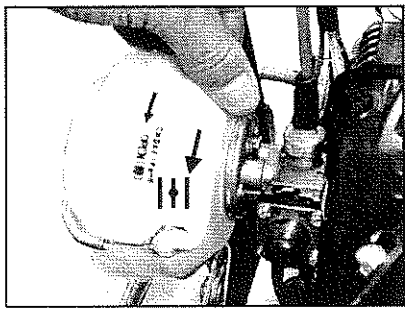


⑦エンジン上部を片手で押さえ(マフラ等高温部は押さえないで下さい。火傷の恐れがあります)、本機が動かないようにして圧縮を感じる位置からスタータノブを勢いよく引っ張って下さい。

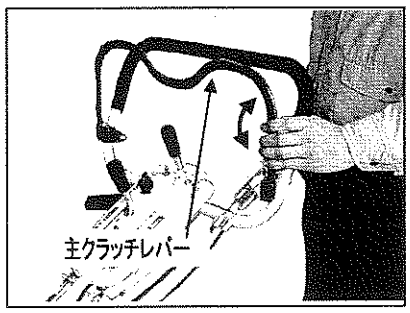
参考；

・プライミング操作は十分に行なって下さい。プライミング操作により、オーバーフローした燃料は、燃料タンクに戻る構造になっていますので、吸い込み過ぎ状態にはなりません。

・初爆（爆発音）だけがあり、始動しない場合には、チョークレバーを「全開」位置にして、再びスタータを勢いよく引いて下さい。



⑧エンジン始動後、チョークレバーを「全閉」のままで始動した場合には、エンジンの調子を見ながらチョークレバーを徐々に「全開」位置へ戻して下さい。




⑨エンジンの調子を見ながら約 3 分間暖機運転を行って下さい。

参考；

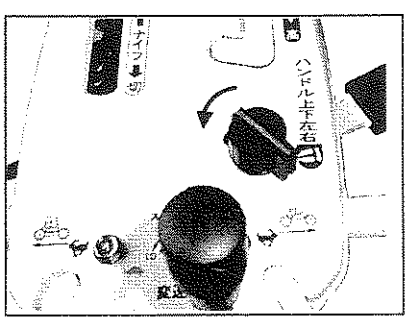
エンジン始動後、主クラッチレバーを操作して小刻みに素早く数回エンジン回転を上げて下さい。これは気化器内の空気を抜くためで、空気があると加速不良及びエンストの原因となります。

## ⚠ 注意

・新品で製品を購入後、最初の一週間(3～4 時間)は、慣らし運転期間として、過負荷をかけない様に控えめな運転を心がけて下さい。

・チョークレバーを「全閉」のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意下さい。

## ■エンジン停止のしかた




⑩主クラッチレバーから手を離し、エンジンスイッチを「停止(OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。

## 走行・変速・停止のしかた

### ⚠ 注意

■所有者以外の人には使用させないで下さい。

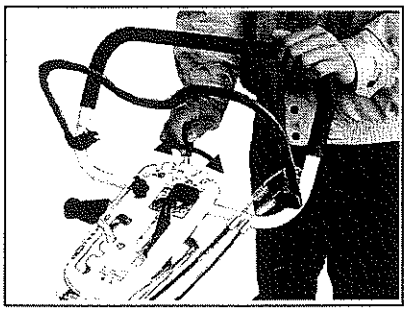
■走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。

・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。

・いきなり傾斜地へ本機を入れず、平坦地で操作方法等十分に練習した後、徐々に緩やかな傾斜地から操作に慣れるようにして下さい。

・スリップによる事故防止のため、必ずスパイク等滑り止めのついた靴を着用して下さい。

### ■走行のしかた



①エンジンを始動させて下さい。

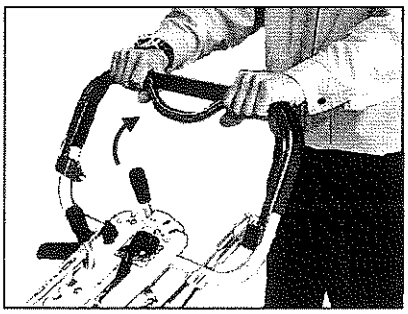
〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉

②変速レバーを所要の位置に確実に入れて下さい。
変速段数は前後進共にそれぞれ「🐢」と「🐓」の２段ずつです。

### ⚠ 注意

・変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあり、大変危険です。

・ギヤが入りにくい時には、無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向に少し移動させるか本機を前後に振ってみて再度確実に変速操作を行って下さい。

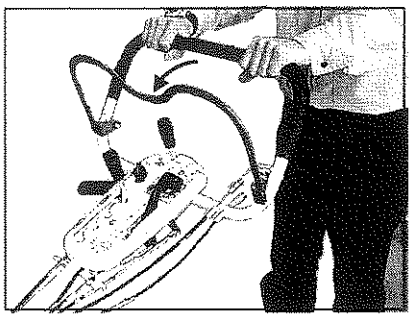


③主クラッチレバーを徐々にハンドル側に倒していくと、まずエンジン回転が上昇し、次に走行クラッチが「入」位置となり、走行を始めます。

### ⚠ 警告

・緊急の場合には、ハンドルから手を離して下さい。まず走行クラッチが切れ、エンジン回転がアイドリング状態にまで下がります。

・移動の際にはナイフクラッチレバーは「入」位置にしないで下さい。高速で回転するナイフに巻き込まれたり、異物を飛散させたり等危険です。

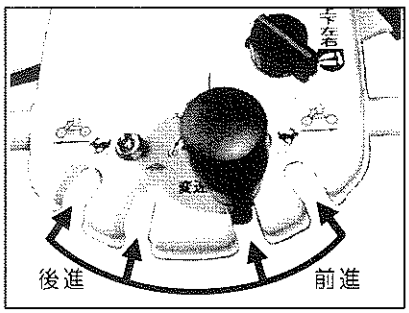


## ■変速・停止のしかた

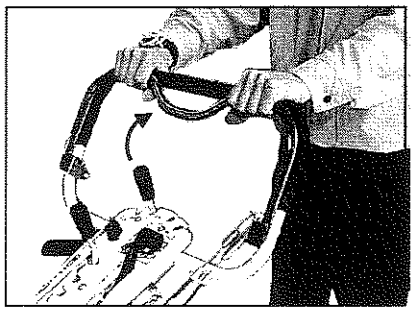
①主クラッチレバーから手を離し「切」位置にして下さい。

参考；

変速操作はエンジン回転を十分に下げた後に行って下さい。エンジン回転が高いまま変速の操作を行おうとすると、ギヤ鳴りがしてうまく変速できないばかりでなく、ミッション内部のギヤが破損する恐れがあります。




②変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に入れ替えて下さい。



③主クラッチレバーを操作し、再発進して下さい。

④主クラッチレバーから手を離して本機を停止して下さい。

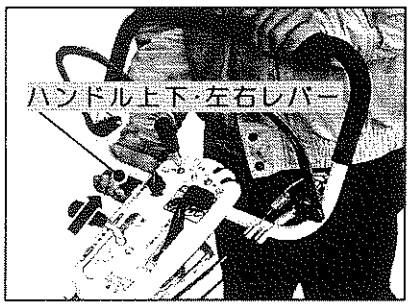
⑤エンジンスイッチを「切(OFF)」位置にして下さい。

*＊本機を離れる場合には必ずエンジンを停止して下さい。*

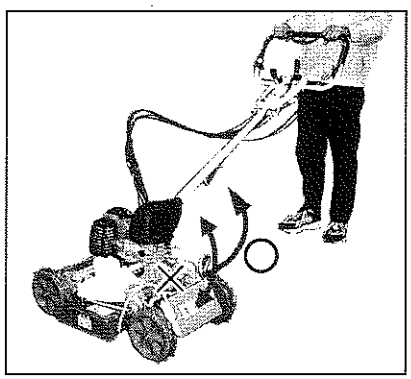
## ■ハンドル上下・左右の調整

### ⚠ 注意

・ハンドル位置の調整は必ず本機を停止した状態で行って下さい。作業をしながら又は走行しながらの操作は思わぬ事故の原因となります。




①ハンドル上下・左右レバーを手前に引き、ハンドルの固定を解除して下さい。



②ハンドル上下は５段、左右は正位置と右側９０°迄の４ケ所の計５ケ所で固定できます。圃場の条件に合わせて調整して下さい。ハンドル上下・左右レバーを放して、近い位置で固定して下さい。ハンドル左側への回動は異物の飛散等危険です。

〈8 頁各部のはたらき⑨参照〉

## トラックへの積み降ろしのしかた

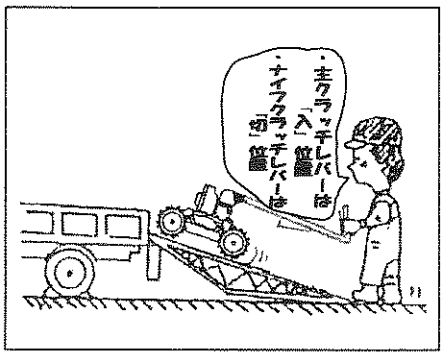
### ⚠ 警告

●運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
●トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
●トラックへの積み降ろしの際には、刈高調整レバーで、ナイフがブリッジと接触しない位置まで調整しておいて下さい。
●ハンドル左右は正位置に戻して下さい。
・トラックはエンジンを止めてサイドブレーキを引き、確実に駐車をして下さい。
・ブリッジのフックは荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
・積み降ろし時にブリッジ上でレバーの操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
・本機の車輪がそれぞれブリッジの中央に位置するようにして下さい。
・本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
・トラックに積んで移動する時には、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。

参考；

・本機にはスパイク鉄車輪が装備されていますので、トラックの荷台で滑ったり、床面が傷付く事があります。このような場合には車輪の下に板切れや厚手のゴムマットを敷く等して荷台を保護して下さい。
・ハンドルをロープで強く縛りすぎるとハンドルが曲がり破損する恐れがあります。

### ■積み降ろしのしかた




①周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
②基準にあったブリッジを使用して下さい。
③走行クラッチレバーでスロットル開度を調整して下さい。
④積み込みは前進で、降ろす時は後進位置で行い、どちらも変速レバーは「🐢」位置で行って下さい。
安全のため、その他の位置には入れないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

●長さ…トラック荷台の高さの３.５倍以上あるもの。
● 幅 …本機の車輪幅にあったもの。
●強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
●スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

草刈作業のしかた

## ⚠ 警告

- *健康のため、継続して１時間以上製品を使用することは避けて下さい。必ず１時間毎に１０分間程度の休憩時間を取るようにして下さい。*
- 使用可能な圃場は、平坦地及び５０°までの傾斜地です。いずれも凸凹の少ない整地された圃場で使用し、それ以外では使用しないで下さい。思わぬ事故の原因となります。
- 特に急傾斜地での作業では必ず平坦地に立ち、斜面に立たないで下さい。足を滑らせ回転中のナイフに巻き込まれて死傷する恐れがあります。また、緩斜面(約 **20°** 程度まで)の作業でもスパイク等滑り止めのついた安全靴を着用し、スリップに十分注意して下さい。
- 長い急斜面での作業を除いては、極力本機は作業者の下(谷)側に位置させて下さい。上(山)側に位置させる使い方は危険を伴います。
- 標準で装着されているカバー・フラッパ類は取り外さないで下さい。刈取部からの石等異物の飛散で、作業者をはじめ周囲に被害を及ぼす危険があります。
- 急傾斜地ほど作業者側への異物の飛散度合が大きくなります。特に注意下さい。
- 圃場内の障害物、側溝、軟弱な路肩のあるところ、地面の凸凹等危険な場所には目印を立てて誤って接近しないように注意して下さい。
- ナイフにからみ付いた草や針金その他の異物を取り除く際には、必ずエンジンを停止して下さい。
- 作業範囲以内に人(特に子供)が入り込まないよう、草刈り作業中である旨の立て札やガードロープを張るなどし、半径１０m以内にこれらのものを近づけないで下さい。
- 本機装着のカバー類は、刈取部からの異物の飛散を最小限に抑える様設計されていますが、これを完全に防止するものではありません。作業前の圃場内異物の除去は、作業者の責任で確実に実施して下さい。

## ⚠ 注意

・作業衣は、長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、スパイク安全靴や帽子又はヘルメット、すね当て、防護メガネ(製品付属)等を常に着用して下さい。

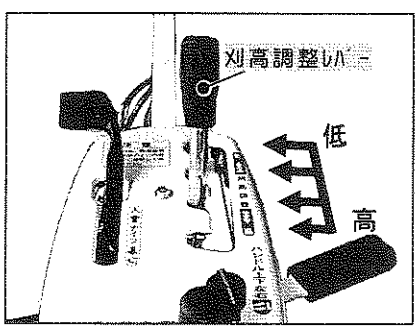
・切り株、石、針金、空カン、棒切れ等の異物は作業前に出来る限り取り除いて下さい。

・石等異物の多い圃場での作業については、これらの飛散による被害を防止するため高刈りをする等して、安全には十分注意して下さい。

・燃料給油栓が常に山側へ向くような使い方をして下さい。燃料が漏れ出し危険です。

参考:

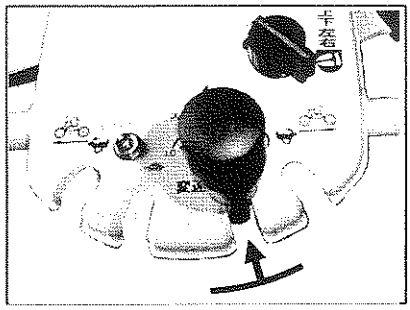
- 初めて本機を使用するときは石等の異物のない平坦地で操作方法等を十分に習得して下さい。刈取り後が少し重複するようにして往復すると刈残しが無く、きれいに仕上がります。傾斜地での草刈は、平坦地で十分に練習した後にして下さい。



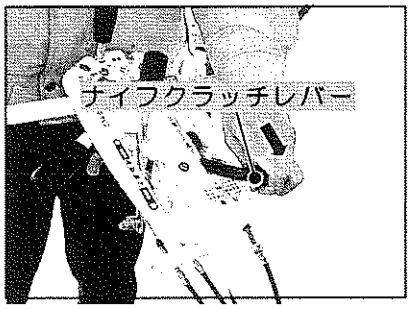

①作業状況に合わせて刈高調整レバーで刈高さを調整して下さい。

②エンジンを始動させて下さい。

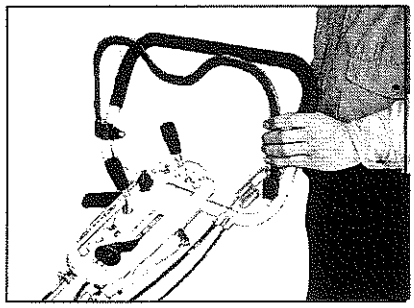
〈10 頁エンジン始動のしかた参照〉



③変速レバーを前進「 」位置にして下さい。



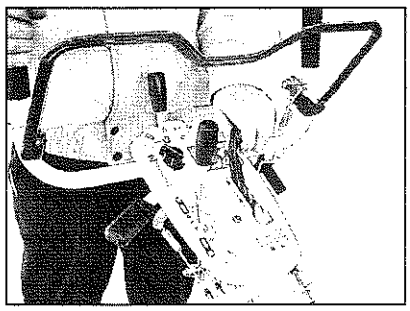

方に倒し、「入」位置にして下



⑤主クラッチレバーを徐々にハンドル側に引いていくと、エンジン回転が上昇し、遠心クラッチによりナイフが回転を始めます。

⑥更にレバーをハンドル側へ引いていき、ハンドルと一緒に握ると走行クラッチが「入」位置となり、作業を開始します。

〈12 頁走行のしかた参照〉



⑦作業を終了する場合には、まず主クラッチレバーから手を離し、本機を停止させて下さい。(遠心クラッチが切れ、ナイフの回転も停止します)

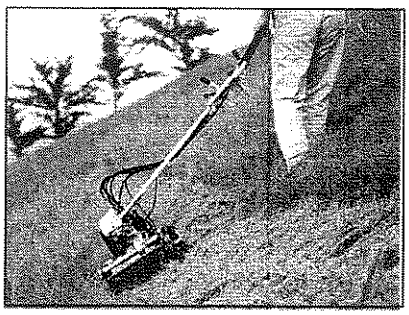
⑧ナイフクラッチレバーを手前に引いて「切」位置にして下さい。

⑨〈11 頁：エンジン停止のしかた〉を参照してエンジンを停止して下さい。

## ■傾斜地での草刈作業

### ⚠ 警告

- *５０°を超える傾斜地では使用しないで下さい。危険です。*
- *必ず本機の上(山)側に立ち、下(谷)側へは立たないで下さい。思いもかけず回転するナイフに巻き込まれる恐れがあります。（長い急斜面での作業の場合を除き）*
- *燃料給油栓が常に山側を向くような刈方をして下さい。給油栓が谷側に向くような使い方では給油栓から燃料が漏れ出すことがあり危険です。*



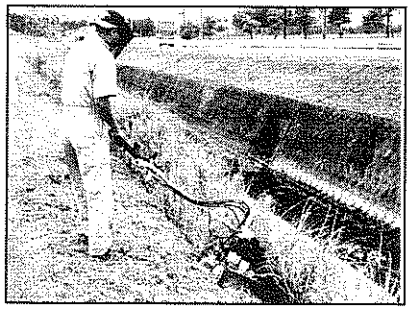
*□比較的緩やかな斜面(20°前後)での作業*

*①必ずスパイク等滑り止めのついた靴を履いて下さい。*

②ハンドルの位置を調整し、〈15 頁草刈作業のしかた〉を参考に作業を開始・終了して下さい。

参考；

上(山)側から下(谷)側へ向かって前後進で作業をして下さい。



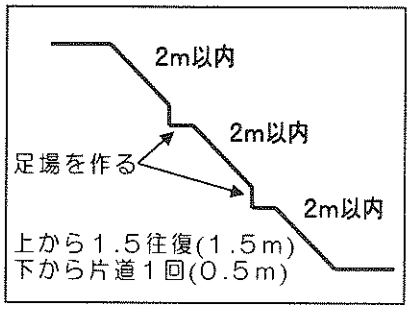
*□２０°～５０°までの急斜面での作業*

①作業者は平坦地へ立ち、本機のみを傾斜地へ入れて作業をして下さい。

②ハンドルの位置を調整し、〈15 頁草刈作業のしかた〉を参考に作業を開始・終了して下さい。

参考；

上(山)側から下(谷)側へ向かって前後進で作業をして下さい。




*□長い急斜面での作業*

①予め、２ｍ以内の間隔で平坦な足場を作っておいて下さい。

②上(山)側より下(谷)側へ向かって 1.5 往復し、下段の足場より上(山)側へ向かって片道だけ１回刈取って下さい。

### ⚠ 注意

上(山)側へ向かっての作業はしないで下さい。
本機が滑り落ちた場合危険です。

参考；

① 作業中、エンジンに負荷がかかり頻繁にエンストしそうになった場合には、まず主クラッチレバーを離して下さい。次に主クラッチレバーを小刻みに動かしてエンジン(ナイフ)の回転が上昇すれば作業速度にも注意をして作業を再開して下さい。

② それでもエンジンの回転が上昇しない場合には、ナイフに草が絡まっている又は草の量が多過ぎる可能性がありますので、必ずエンジンを停止した後ナイフに絡まった草屑をきれいに取り除き、刈高さを一段高くしてみて下さい。

*③ ①の状態のまま無理に作業を続けようとすると、本機の遠心クラッチが焼け、故障の原因となると共に、思わぬ事故の原因となります。*

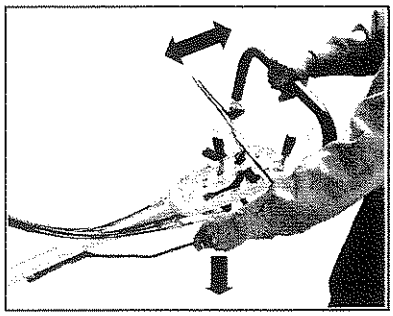
### ⚠ 警告

・安全のため、最初は「🐢」位置からスタートし、周囲の安全を確かめた上で作業条件が合えば「🐇」に変速して下さい。

・ナイフの回転中はナイフカバー内側いっぱいまでナイフがきますので、絶対に草等を足等で蹴り入れない様にして下さい。

・エンジンの冷却風取り入れ部分に草屑等が堆積したまま作業を続けると、エンジンが過熱し、焼付き又は火災の危険があります。このような場合にはエンジンを停止し、こまめに清掃をして下さい。

## ハンドル伸縮の調整



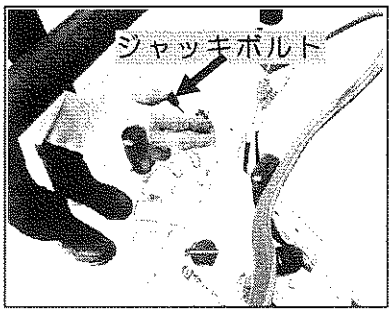
作業条件に合わせてハンドルの長さが１５ｃｍの間隔で４段階で調整できます。傾斜面の長さに応じて使い分けて下さい。

①ハンドル伸縮レバーでロックを解除してハンドルの出し入れをして下さい。調整後はハンドルが「カチッ」と音がしてロックされた事を確認して下さい。

参考：

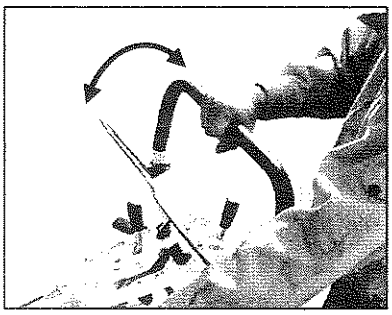
ハンドルの出し入れは、ハンドル伸縮レバーから手を離してハンドル握り手で一気に行なって下さい。ハンドル伸縮レバーを握ったまま操作をすると出し入れが重くなる場合があります。

## アッパーハンドル角度の調整




作業状態に合わせて、アッパーハンドルの角度を変えることができます。

ジャッキボルトを緩めます。



アッパーハンドルを作業のし易い位置まで動かします。
再びジャッキボルトを締め、アッパーハンドルを固定します。

## 《各部オイルの補給・交換・注油のしかた》

### ⚠ 注意

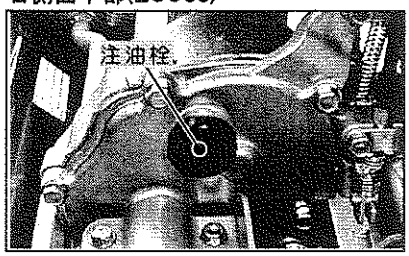
・出荷時本機には予めミッションオイルが注油されていますが、初めて本機をご使用になる前には、必ずオイルの確認をして下さい。
・定期的なオイル交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
・各部オイルの点検・交換・注油をする場合には、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを（約５分以上）待ってから作業を行って下さい。
… エンジン停止後、すぐに作業を行うと …
＊エンジン本体はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
＊エンジン停止直後は、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい■

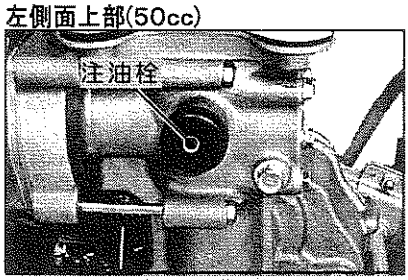
### ミッションオイルの補給・交換

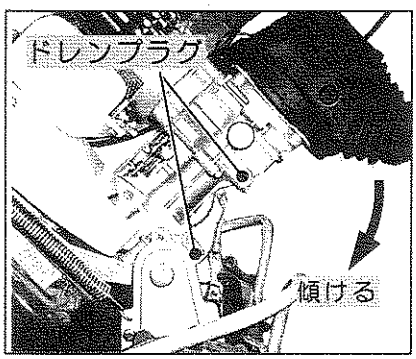
※注油は少しずつおこなって下さい。一度に注油しようとすると、エアが抜けずに注油口よりすぐにオイルが溢れ出ます。

右側面下部(200cc)




左側面上部(50cc)




◎ 補　給… 注油量を厳守下さい。

①注油は２ケ所です。ミッションケースの両側面に１ケ所ずつの注油栓があります。
右側面下部に２００ｃｃ、左側面上部には５０ｃｃのミッションオイル(#90)を注油口から注油して下さい。

参考；
オイルの量が少ない場合、又はオイルの劣化がひどい場合には下記を参照してミッションオイルの交換をして下さい。

◎ 交　換…

②オイルを受ける適当な容器を用意します。
③ミッションケース左側面上下部２ケ所のドレンプラグ(廃油栓)を取り外し、オイルを抜き取ります。
参考;
ハンドルを下げて、ミッションを傾け、同時に注油栓も取り外しておくと、オイルが抜き取りやすくなります。
④ドレンプラグを確実に取り付けた後、ミッションオイルを注油して下さい。

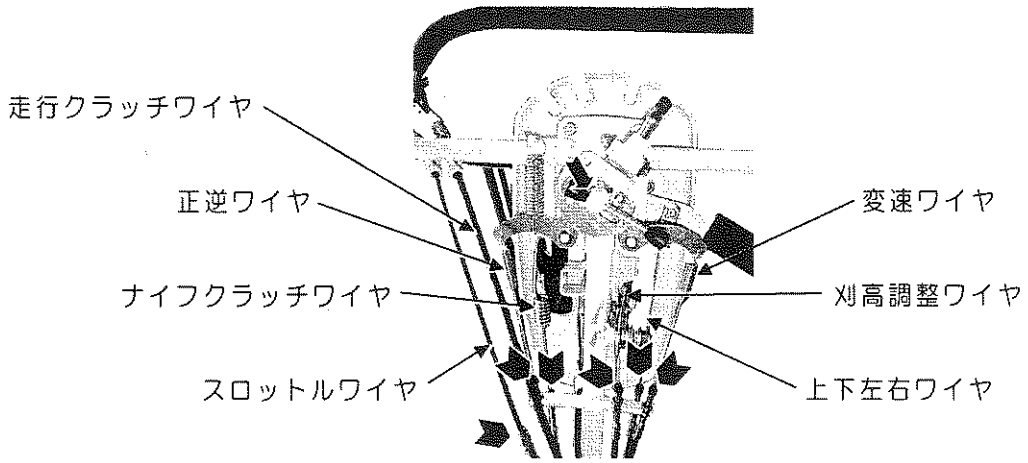
| 交換の目安 |
| --- |
| 初回：１０時間目、２回目以降：50 時間毎 |

*■但し、高負荷又は高温下で連続長時間使用する場合には、上記目安より早めの交換(約半分の時間)を励行して下さい。*

## 可動部への注油のしかた

◎約３０時間毎にグリスを、又その他の部分には必要に応じてエンジンオイル(#30)を注油して下さい。注油を怠ると潤滑不良により破損の原因となる恐れもあります。

＊ワイヤへは先端の防水キャップを外して注油し、キャップを元通りに取り付けておいて下さい。
グリスはガイド部分にハケ塗りして下さい。　➡ …グリス　➡ …オイル



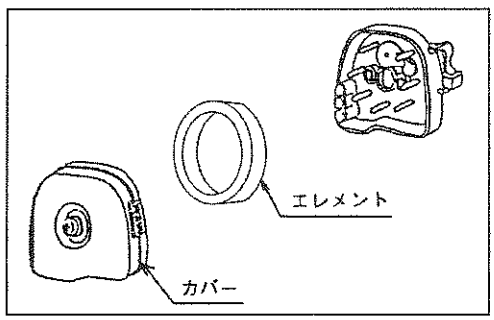

《各部の点検・整備・調整のしかた》

## エアクリーナの清掃のしかた

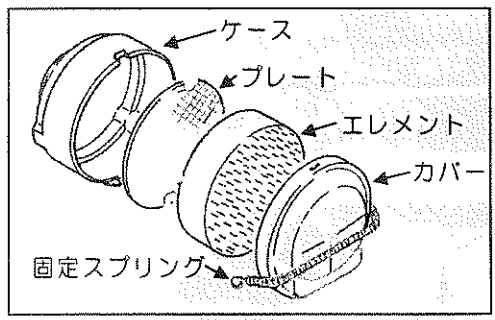
### ⚠ 危険

●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると、出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなりら変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。
…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。
ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

メイキＴＬ５２




カワサキＴＨ４８




①カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くエレメントを取り出して下さい。(TL52 は＋ドライバで、TH48 は固定スプリングを上側にずらして)
②エレメントは、中性洗剤で洗浄後よく絞り、乾燥させて下さい。その後、新しいエンジンオイル(SAE10W-30 相当)に浸し、固く絞って余分なオイルを振り落として下さい。
③ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、元のとおりに組み付けて下さい。
TH48 はカバーの凹部に固定スプリングを「パチン」と確実にはめて下さい。

参考；

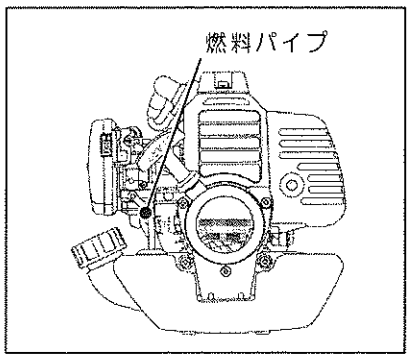
・洗浄時、エレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れて使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

| | 清掃 | 交換 |
|---|---|---|
| エレメント … | 10時間毎<br>又は毎日 | 60時間毎 |

チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

## 燃料パイプの点検のしかた




⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

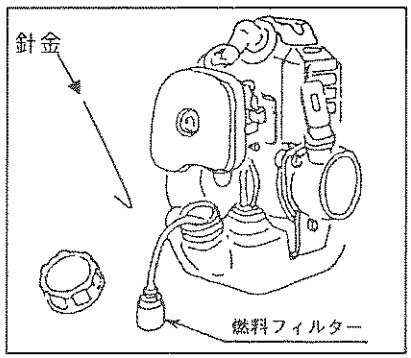
・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に３年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。（該当機）

・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。（該当機）

参考；

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

## 燃料フィルタ清掃のしかた




⚠ 危険

くわえタバコや裸火照明での作業禁止

・20使用時間ごとに燃料フィルタをきれいな白灯油で清掃して下さい。

・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。

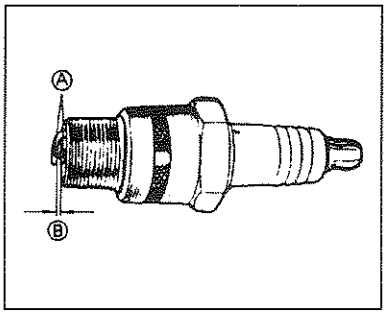
①針金等で燃料給油口から燃料フィルタを引き出して下さい。

②汚れがひどい時は、フィルタを交換の上、タンク内も洗浄して下さい。

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

## 点火プラグの点検・調整のしかた




①50使用時間毎にプラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Ａにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあれば拭き取って下さい。

②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。

③点火プラグの電極隙間Ｂを0.6～0.7mmに調整して下さい。

参考；

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。　＜点火プラグ基準…28 頁《仕様》参照＞

《そのほかの点検》

①50 使用時間毎に、マフラ尾管内、シリンダ排気孔、ピストン頂部、燃焼室内に堆積したカーボンを除去して下さい。

参考；

この作業は、エンジン整備の技術及び道具を要します。製品お買い上げの販売店までご相談下さい。

②各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。（毎回始業時）

③Ｖベルトは初期伸びしますので、２～３時間運転後に再調整して下さい。
〈23 頁…ナイフクラッチワイヤ調整参照〉

④本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。

⑤各部を十分に馴染ませる為、最初の２～３時間は無理な作業はさけて下さい。

⑥作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行って下さい。
〈30 頁…定期自主点検表参照〉

⑦各部のボルト・ナット類に緩み、脱落がないか確認して下さい。

⑧本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。

●もしオイル漏れを確認した場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。

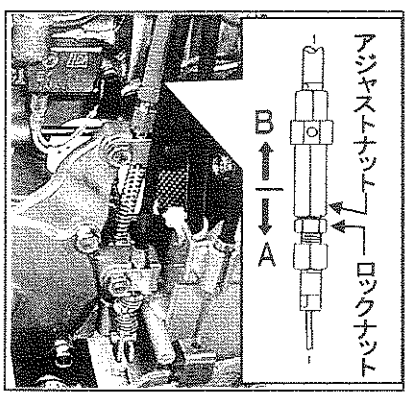
●オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

## 各種ワイヤ・ベルト調整のしかた

### ⚠ 警告

・各ワイヤ・ベルトを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、エンジンを停止して行って下さい。

・本機の点検・整備時には、不意な始動を避ける為エンジンの点火プラグからプラグキャップを抜いておいて下さい。

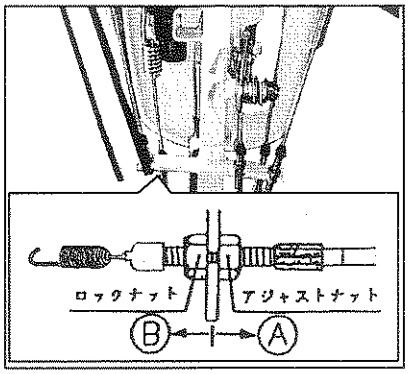



### ■走行クラッチワイヤ調整

左図を参考に走行クラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□走行クラッチが抜ける場合。
…アジャストナットをＢの方向へ…

□走行クラッチが抜けない場合。
…アジャストナットをＡの方向へ…




## ■ナイフクラッチワイヤ調整

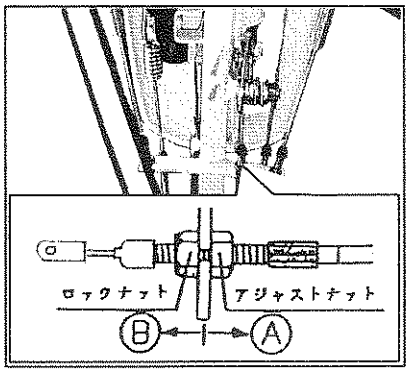
左図を参考にナイフクラッチワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ナイフがスリップする場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

□ナイフが止まらない場合。

…アジャストナットをAの方向へ…




## ■刈高調整ワイヤ調整

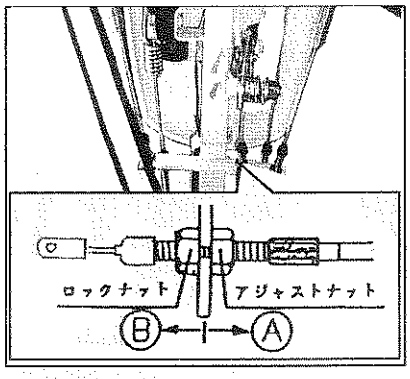
左図を参考に刈高調整ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□刈高を高くする場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

□刈高を低くする場合。

…アジャストナットをAの方向へ…




## ■ハンドル上下左右ワイヤ調整

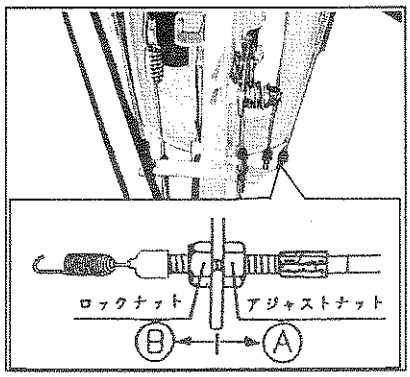
左図を参考にハンドル上下左右ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□ロックのかかりが浅い場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

□ロックのかかりが深く、抜け難い場合。

…アジャストナットをBの方向へ…




## ■変速ワイヤ調整

左図を参考に変速ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

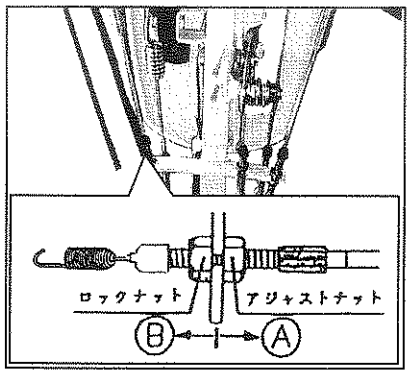
□「低速」側が抜ける場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

□「高速」側が抜ける場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

## ■正逆ワイヤ調整




左図を参考に正逆ワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

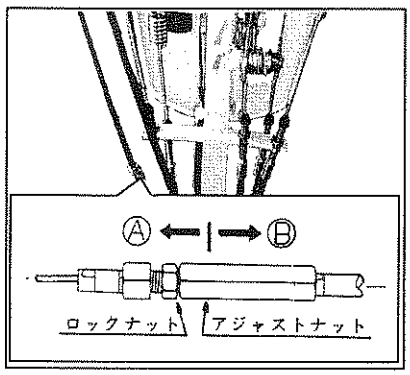
□「前進」方向でクラッチが抜ける場合。

…アジャストナットをＡの方向へ…

□「後進」方向でクラッチが抜ける場合。

…アジャストナットをＢの方向へ…

## ■スロットルワイヤ調整




左図を参考にスロットルワイヤのアジャストナットで調整をして下さい。

□エンジン回転が高すぎる場合。

…アジャストナットをＡの方向へ…

□エンジン回転が低い場合。

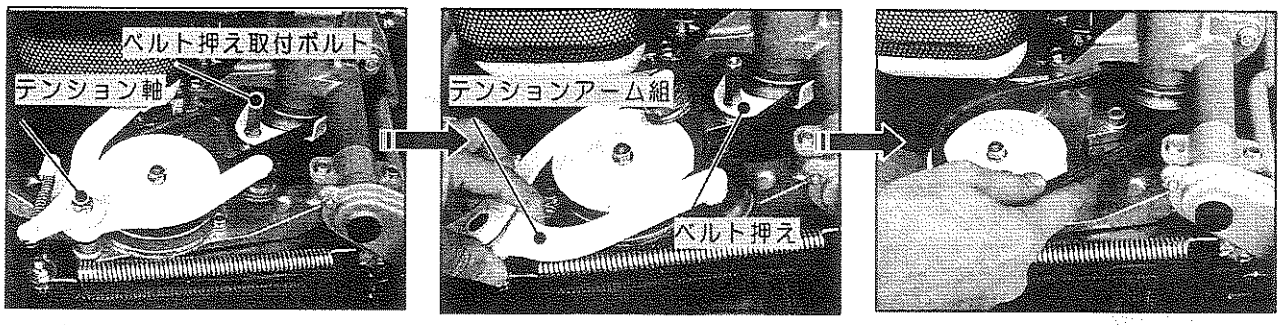
…アジャストナットをＢの方向へ…

*走行クラッチレバーのスロットルワイヤ付け根での遊びが 0.5～1.0mm になるように調整して下さい。*

参考：

エンジン回転を過回転（オーバーレブ）させないで下さい。過回転によるエンジンの故障や、ハンドルから手を離してもナイフの回転が止まらなくなる事があります。

## ■ナイフベルトの交換




①ナイフクラッチレバーは「切」位置で、ベルトカバーを取り外しておいて下さい。

②テンション軸を外し、テンションアーム組でテンションアームを取り外します。

③ベルト押え取付ボルトを外し、ベルト押えを取り外してナイフベルトを取り外します。

④新しいベルトと交換し、組み付けは上記の逆の方向で行って下さい。

参考：

・調整後はロックナットを確実に締め付けておいて下さい。

・調整のために取り外したボルト、カバー類は必ず元の通りに取り付けておいて下さい。

・調整後は、クラッチレバーの「入」・「切」の動作確認を必ず行って下さい。

・ベルトは、初期のびが多少ありますので、新品より 2~3 時間運転後、再度調整して下さい。

・ベルトは消耗品です。異常があれば新品と交換して下さい。初回 20 時間目、以降 100 時間毎に調整します。ベルトサイズは 28 頁《仕　様》参照。

《ナイフの点検・交換・修正のしかた》

## ナイフの点検・交換・修正

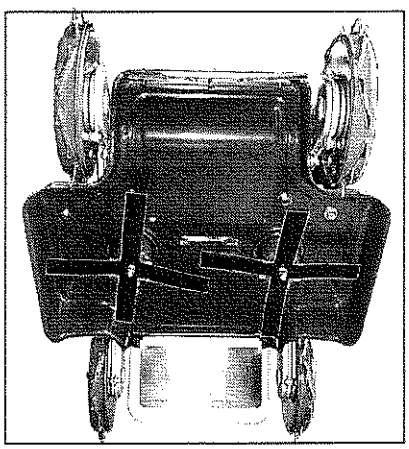
*■作業を安全に行うため、ナイフの作業前点検を行って下さい。■*

### ⚠ 警告

- *本機には鋭利なナイフが使用されていますので、点検・交換時のナイフ脱着の際には必ず製品付属の「ナイフ脱着用工具」を使用し、絶対に素手で直接ナイフに触らないで下さい。ケガをする恐れがあります。刃先に脱着工具を差し込んで使用して下さい。*
- *ナイフを交換する際には必ずメーカー純正品とご指定下さい。メーカー純正品以外の使用による故障・事故については保証の対象外となります。*
- この作業は必ず二人で行い、作業中刈取部が落下しないようハンドルをしっかりと支えながら行って下さい。
- 前回の作業時に縁石や木の根等にナイフが当たり、ナイフの曲がりや欠損が生じていないか、又、ナイフが摩耗していないか作業を始める前に点検して下さい。
- ナイフの摩耗、割れ、曲がり、欠損等を放置したまま作業を続けると、作業中にナイフが折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たったりして重大な人身事故を招く原因となったり、振動により本機破損の原因となる場合があります。
- ナイフの交換・調整は必ず４本同時に実施して下さい。部分的な交換・調整はナイフのバランスが狂い、振動発生等の原因となります。

### ⚠ 注意

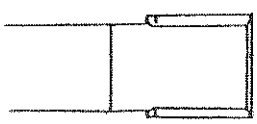
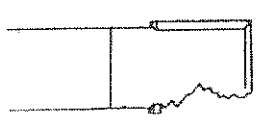
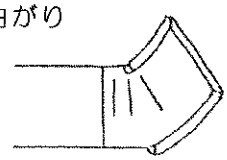
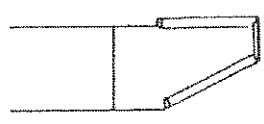
- ナイフの交換・修正等の作業は適切な工具と整備技術をおもちの方が実施して下さい。
- 袋ナットも摩耗します。ナイフの研摩の際には袋ナットも同時に交換するようにし、決して他のナットで代用しないで下さい。
- 作業をする時は手を滑らして怪我をしないように十分注意して下さい。



### ■ナイフの点検・交換のしかた

①エンジンを停止し、念のため点火プラグのキャップを外して下さい。
②もう一人の人に本機のハンドルを押し下げてもらい、刈取部分を上げて作業中保持してもらって下さい。
③ナイフの割れ、曲がり、摩耗を点検して下さい。
④ナイフ締め付けボルト、袋ナットの取り付け状態を点検して下さい。

下図の様に異常な状態になっていたらナイフの左右を入れ替えて使用するか交換して下さい。

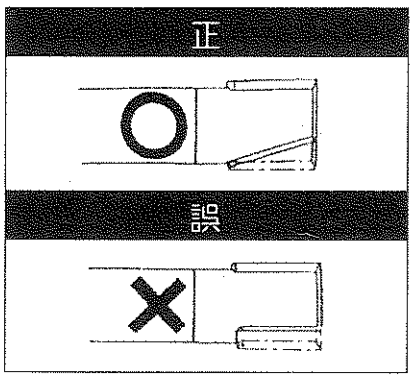
| 新　品 | 交　換 | | |
|---|---|---|---|
| | 欠損 | 曲がり | 摩耗(修正限界) |
|  |  |  |  |

参考；

・乾燥した土や砂を含んだ場所での使用はナイフの摩耗が早いため頻繁に点検して下さい。
・予め予備のナイフをお買い求め頂き、手元におかれておくことをお奨めいたします。

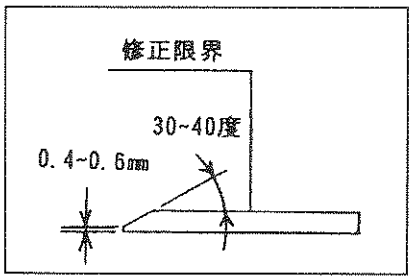
## ■ナイフの修正のしかた

…修正を行うと、ナイフの初期の性能が損なわれますのでご承知おき下さい。…




①以下の要領でナイフを研摩して下さい。
・ナイフを元の刃と平行に研摩すると、破損の原因となります。左図のように研摩して下さい。
・ナイフのバランスを崩さないように使用する両側の刃を同量研摩して下さい。

②刃先には 0.4～0.6 ㎜程度の平らな部分を残しておいて下さい。剃刀の刃のように刃先をとがらせると、すぐに摩耗し切れ味が鈍ります。

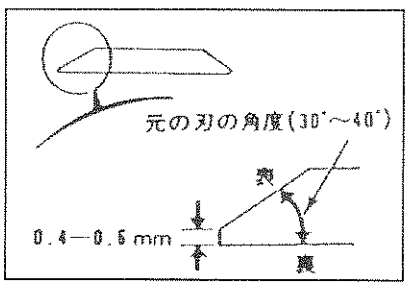



参考；

グラインダで研摩する際には、水をかけながらナイフの温度を上げないようにして少しずつ研摩して下さい。
ナイフの温度が上がりすぎると熱処理が戻り、摩耗が速くなります。*★研摩代は殆どありません。研摩による修正は１回程度が限度です。（早めの交換をお勧めします。）★*

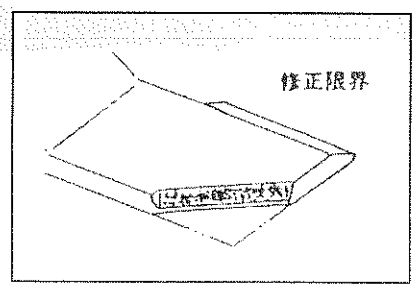
### ⚠ 注意

・グラインダを使用する際には必ず帽子、厚手の手袋、防護メガネ等をつけて安全に注意して行って下さい。
・ナイフのバランスが取れていないと、異常振動が生じ、本機を破損する恐れがあります。
・ナイフの修正は４本同時に行って下さい。




③刃先が左図のようになったら、新しいナイフと交換して下さい。

④研摩後、定規等の薄板の上に穴の中心を合わせ、ナイフのバランスをテストして下さい。左右のどちらかがわずかでも下がったら、下がった方の刃の部分を再度研摩して下さい。




⑤ナイフを元の通りにしっかりと取り付けて下さい。

## ナイフの取付け方

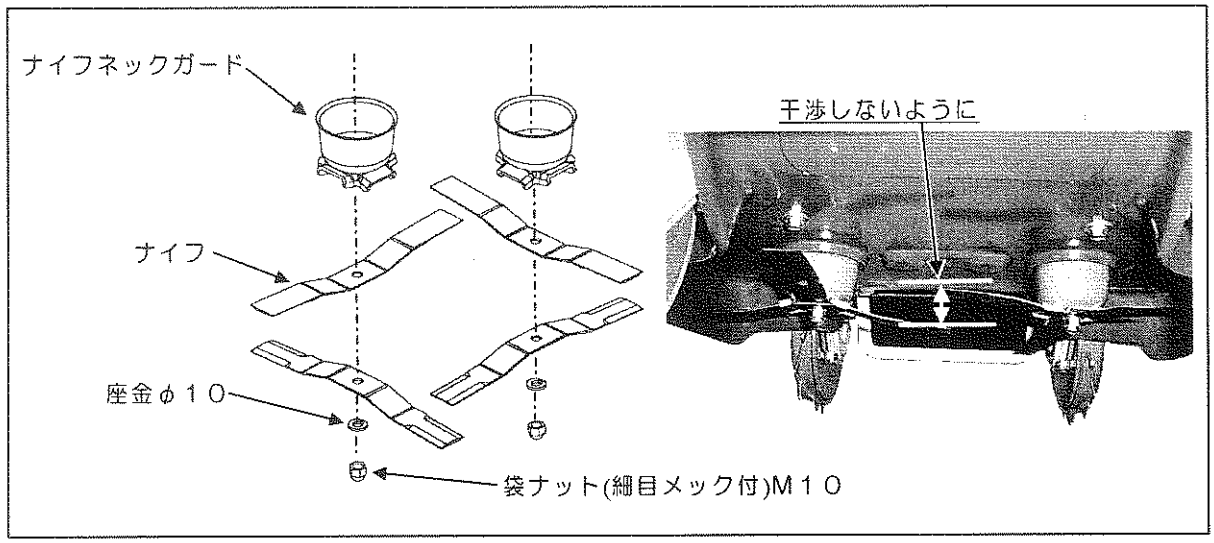
*◆◆ナイフの取付けは、下記の点に注意して実施して下さい◆◆*

■ナイフの回転方向は、本機の進行方向に対して常に内向きに回転します。
従って、ナイフの左右を入れ替えて使用することはできません。必ず４枚一度に交換下さい。

■両ナイフ共に右ネジが使用されています。ナイフ及びネックガード脱着の際(草屑の清掃時等)には注意して下さい。

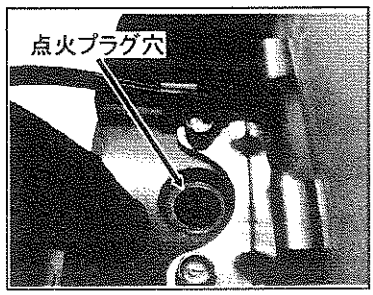
■下図を参考に４本のナイフが９０°の位相間隔でクロスする位置でセットして下さい。
セット位置を間違えると互いのナイフが回転中に干渉し、ナイフの折損、欠け、振動等の原因となります。

■ナイフセット後は各ボルト・ナットを元の通りに確実に締め付けておいて下さい。




### 《長期保管のしかた》

*□燃料タンクやキャブレタ内に燃料を残したまま長期間製品を放置すると、再始動困難や出力低下等のトラブルの原因となります。□*




①本機を３０日以上使用しないときは、燃料タンク内の燃料は全て抜き取り、エンジンを始動してアイドリング状態で自然に停止するまでそのままにしておきます。

②エンジン停止後スイッチを「停止(OFF)」位置にして下さい。

③点火プラグを取り外し、プラグの穴から新しいエンジンオイルを約 0.5ml 注入し、リコイルスタータでゆっくり数回空転させた後、点火プラグを元通りに取付けて下さい。

④リコイルスタータをゆっくりと引き、重たくなったところで止めて下さい。(吸・排気孔が閉じた状態)不具合箇所は修理をしておいて下さい。

⑤各部をきれいに清掃し各部に給脂の後、湿気やホコリの少ない場所に保管して下さい。

参考;

ナイフカバー内に付着した泥や草屑は、これが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的簡単に洗い落とすことができます。

《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸すときには、取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《仕　様》(参考数値)

| | | |
|---|---|---|
| 名　称 | | - |
| 型　式 | | AZ550 |
| 全長×全幅×前高(mm) | | 1,600×550×1,040 |
| 刈　幅(mm) | | 500 |
| 重　量(kg) | | 45 |
| 刈　高(mm) | | ①35　②47　③59　④70　(地面刈禁止) |
| ナイフ(枚) | | バーナイフ(260mm)×4 ダブルクロスナイフ |
| ベルト(本) | 刈　取 | SG1000 LA23×1本 |
| タイヤサイズ(本) | | スパイク鉄車輪×4(4WD) |
| ハンドル | | 上下(×5段)・右側へ(×5段)可変／450mm 伸縮 |
| 速　度 (km/h) | 前　進 | ①　0.84　②　1.54　(直進時) |
| | 後　進 | ①　0.84　②　1.54　(直進時) |
| クラッチ方式 | 走　行 | 噛み合い(デッドマン)方式 |
| | 刈　取 | ベルトテンション方式 |
| ミッションオイル(CC) | | 50／200(#90)2ヶ所に給油 |
| エンジン 名　称 | | メイキ |
| エンジン 型　式 | | TL52 |
| エンジン 排気量(cc) | | 52 |
| エンジン 2サイクル専用燃料 (JASO/FC級) | | 25:1(混合ガソリン) |
| エンジン 始動方式 | | リコイルスターター |
| エンジン 点火プラグ(NGK) | | BM6A |
| エンジン タンク容量(L) | | 1.3 |

※本仕様は改良のため予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

| No. | 部　品　名 | 規格・寸法 | 個数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | 取扱説明書 | | 1 | |
| 2. | 品質保証書 | | 1 | |
| 3. | 両口スパナ | 10-12 | 1 | |
| 4. | 両口スパナ | 14-17 | 1 | |
| 5. | ナイフ脱着用工具 | | 1 | 専用工具 |
| 6. | ゴーグル | 防曇タイプ | 1 | 保護具(輸出仕様除く) |
| 7. | | | | |
| 8. | | | | |

《消耗品明細》

| No. | 部　品　名 | 部　品　番　号 | 個数/台 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 1. | ナイフ | 0208-82110 | 4 | |
| 2. | ナイフベルト | 89-6122-002303 | 1 | LA-23(スーパーゴールド) |
| 3. | ナイフネックガード | 0208-60220 | 2 | |
| 4. | 小型六角袋ナット M10 | 0208-73200 | 2 | 細目メックキャップ付(右ネジ) |
| 5. | バネ座金φ10 | 89-1750-100002 | 2 | |
| 6. | 特殊キー | 0208-32800 | 1 | 1セット4個入（アルミ） |
| 7. | 走行クラッチワイヤ | 0229-70900 | 1 | |
| 8. | 正逆ワイヤ | 0229-70700 | 1 | |
| 9. | ナイフクラッチワイヤ | 0229-70800 | 1 | |
| 10. | スロットルワイヤ | 0241-70200 | 1 | (TL52　ﾒｲｷ用) |
| 11. | 変速ワイヤ | 0229-70600 | 1 | |
| 12. | 刈高調整ワイヤ | 0229-70400 | 1 | |
| 13. | 上下左右ワイヤ | 0229-70500 | 1 | |
| 14. | 危険マーク② | 83-1484-921-00 | 2 | |
| 15. | 〃　⑧ | 83-1516-922-00 | 1 | 刈取部周辺は… |
| 16. | 注意マーク⑰ | 83-1516-908-00 | 2 | このカバーなし… |
| 17. | 〃　⑱ | 83-1516-915-00 | 1 | 安全のため… |
| 18. | 〃　㉙ | 0209-90200 | 1 | 作業環境により… |

《定期自主点検表》

★点検や整備を怠ると事故や故障の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。

★年次点検は１年に１回、月次点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

| 項目 | 点検 | 点検内容 | | 点検実施時期 始業 | 月次 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 動機 | 本体 | ①かかり具合、異音 | 始動の際、容易に起動するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②回転数と加速の状態 | 回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③排気の状態及びガス漏れ | 排気色、排気臭及び排気音は正常か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ | 損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | | ⑤シリンダヘッドと各マニホルド締付部の弛み | ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。<br>＊（正常締付トルクで弛みはないか） | | | ○ |
| | | ＊⑦圧縮圧力 | （正規の圧縮圧力であるか） | | | ○ |
| | | ⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。 | エンジンベースに亀裂、変形はないか。<br>ボルト・ナットに弛みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 潤滑装置 | ①油量、汚れ。（該当機のみ） | オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②油漏れ。 | オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 燃料装置 | ①燃料漏れ。 | 燃料の漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②燃料フィルタの詰まり。 | 著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。 | | ○ | ○ |
| | | ③燃料の量・質。 | 燃料は入っているか、又質は良いか、混合比は適切か。 | ○ | ○ | ○ |
| | 電気装置 | 電気配線の接続部の弛み、損傷。 | ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。 | | ○ | ○ |
| | 清浄装置 | ①エアクリーナエレメントの汚れ | エアクリーナエレメントに汚れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②エレメントの破損。 | エレメントに破れ、スリ切れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | 冷却系統 | ①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。 | リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②マフラへの草屑等の堆積。 | マフラ周辺に草屑が堆積していないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 伝達装置 | ベルト | ①弛み。 | ベルトの張り具合は適切か。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②損傷、汚れ。 | 亀裂、損傷、著しい汚れはないか。 | | ○ | ○ |
| | ミッション | ①異音、異常発熱及び作動。 | 作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。 | | ○ | ○ |
| | | ②油量、汚れ。 | オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。 | | | ○ |
| | | ③油漏れ。 | オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 車体 | 車体 | 亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。 | フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。 | | ○ | ○ |
| | カバー | 亀裂、変形、腐食。 | 亀裂、変形、腐食はないか。 | | | ○ |
| | ﾚﾊﾞｰ、ﾜｲﾔ | レバー、ワイヤの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。 | 作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| 走行装置 | タイヤ(ホイル) | ①空気圧及び溝の深さ。（該当機のみ） | 基準値内であること。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ②亀裂、損傷及び偏摩耗。（該当機のみ） | 亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ③金属片、石その他異物の噛み込み（該当機のみ） | 異物の噛み込みはないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ④ボルト・ナットの弛み、脱落。 | ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。 | ○ | ○ | ○ |
| | | ⑤ガタ、異音。 | 取付部に異音、ガタはないか。 | | ○ | ○ |
| | 表示ﾏｰｸ | 損傷。 | 警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。 | | ○ | ○ |

※　＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参照して適切な処置をして下さい。

| 現　　象 | 原　　因 | 処　　置 |
|---|---|---|
| 刈草がうまく放出しない。 | 草が湿っている。 | 草が乾燥してから作業する。 |
| | 草が長い。 | 刈高さを高くして、二回刈する。 |
| | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| | エンジン回転数が低い。 | 最高回転数にする。 |
| | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| 刈残しが出る。 | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| | エンジン回転数が低い。 | 最高回転にする。 |
| | ナイフの摩耗、破損。 | 新しいナイフと交換する。 |
| | ナイフカバー内への草屑の堆積。 | ナイフカバー内面を清掃する。 |
| | 草が長い。 | 二回刈りをする。 |
| 土削りを発生する。 | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| | 旋回速度が速い。 | 旋回時の速度を落とす。 |
| | 地形にうねりがある。 | 草刈りパターン(刈取方向)を変える。 |
| | 地形に起伏(凸凹)が多い。 | 刈高さを高くする。 |
| | ナイフの曲がり。 | 新しいナイフと交換する。 |
| ナイフがスリップする。 | ベルトの張力が低い。 | ベルトの張力を調整する。 |
| | ナイフカバー内に異物が詰まっている。 | ナイフカバー内を清掃する。 |
| | プーリへの草の堆積。 | プーリをきれいに清掃する。 |
| | ベルトの摩耗。 | 新しいベルトと交換する。 |
| 変速しない。 | 変速の位置がズレている。 | 変速ワイヤの調整。 |
| | ミッションの不具合。 | ミッションの修理。 |
| 振動が大きい。 | ナイフのバランスが悪い。 | ナイフを修正する。(全ナイフ) |
| | ナイフの損傷。 | 新しいナイフと交換するか、修正する。 |
| | ナイフネックガード内への草の堆積。損傷。 | ナイフネックガードを清掃、交換する。 |
| | ナイフ軸が曲がっている。 | ナイフ軸を交換する。 |
| | ベルトの破損。 | 新しいベルトに交換する。 |
| | 新旧のナイフが混在している。 | 新旧のナイフは混在させない。 |
| 刈り取り作業負荷が大きい。 | エンジン回転が低い。 | エンジン回転を上げる。 |
| | 作業速度が速い。 | 作業速度を落とす。 |
| | ナイフの回転軸周りに草が堆積、又は巻きついている。 | 走行を停止して、エンジン回転の上昇を待つ。もしくは刈取部を清掃する。 |
| | 草が長い。 | 刈高さを高くして、二回刈りをする。 |
| | 刈高さが低い。 | 刈高さを高くする。 |
| 車輪がスリップする。 | ナイフ及びナイフカバー内への異物の堆積。 | ナイフ及びナイフカバー内を清掃する。 |
| | 圃場が軟弱である。 | 圃場が乾くまで作業を中断する。 |
| | 刈高さが低い。 | 刈高を高くして二回刈りをする。 |
| 車輪が動かない。 | トルクリミッタが作動している。チェンの保護 | 正常（車輪へかかる負荷を取り除く） |
| | 車軸のキーが切れている。 | キーを交換する。 |
| 異物が飛散する | ハンドルを左側へ回動している。 | ハンドルの回動は右側に行う。 |
| | 圃場への異物の混入。 | 刈高さを上げるか、予め異物を除去する。 |
| 注油栓が作業中飛び出した。 | ミッションオイルの入れすぎ。(内圧過上昇) | 正規のオイル量にする。 |
| 左右のナイフが干渉する。 | ナイフの取付け間違い。 | 左右のナイフの位相を９０°にする。 |
| 燃料が漏れる。 | 燃料給油口が下(谷)側に向いている。 | 燃料給油口は上(山)側に向けて作業する。 |
| ナイフの回転が停止しない。 | ナイフベルトの付き回り。 | ベルト押さえ位置を調整するか交換する。 |
| | エンジンアイドリング回転が高い。 | 規定のアイドリング回転に調整する。 |
| エンジン停止後、再始動するとエンジン回転が上昇しない。 | ナイフもしくはナイフ軸に刈草等が巻きついている。 | ナイフもしくはナイフ軸に巻きついた草屑を取り除く。 |

※ わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

## 《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

| 現　　象 | 原　　因 | 処　　置 |
|---|---|---|
| 始動困難な場合<br>（始動しない場合） | エンジンスイッチが「停止(OFF)」となっている。 | エンジンスイッチを「始動(ON)」位置にする。 |
| | チョークﾚﾊﾞｰを引いていない。 | エンジン冷却時、チョークレバーを 位置にする。 |
| | 燃料が流れない。<br>プライミングの操作不足。 | 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。<br>燃料フィルターを清掃もしくは交換する。<br>プライミングポンプを更に押して十分な燃料をキャブレタに回す。 |
| | 燃料送油系統に、空気や水が混入している。 | 異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。 |
| | 燃料の吸い込み過ぎ。 | チョークレバーを全開 にして始動する。 |
| | 点火コイル、又はユニットの不良。 | ＊点火コイル、又はユニットを交換する。 |
| | 点火プラグの不調。 | 点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。<br>新しい点火プラグと交換する。 |
| 出力不足の場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | エアクリーナの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークレバーを完全に戻す。 位置にする。 |
| | 冷却系統が目詰まりをしている。 | リコイルスタータ周辺を清掃する。 |
| | 排気尾管、エンジン内部へのカーボンの堆積 | ＊カーボンを除去する。 |
| 突然停止した場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| 排気に異臭がある場合 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| エンジン回転が不調で出力が低下した場合 | エアクリーナエレメントの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークレバーを完全に戻す。 位置にする。 |
| 圧縮が弱く、出力も低下した場合 | シリンダ・ピストンリングの摩耗。 | ＊リングを交換する。 |
| エンジン回転が安定しない（上昇しない） | チョークが完全に開いていない。 | チョークレバーを完全に戻す。 位置にする。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| しばらくするとエンストする。 | 点火コイルの不良。 | ＊点火コイルを交換する。 |
| | 燃料フィルタの目詰まり。 | 燃料フィルタを清掃もしくは交換する。 |
| 排気にオイルが混じる | 混合比が濃い。 | 正規の混合比にする。 |
| エンジンからの異音がする。（乾いた音） | 混合比が薄すぎる。(焼付の前兆)<br>オーバーレブ | 正規の混合比にする。<br>＊エンジンの最高回転数を調整する。 |
| 燃料が漏れる。 | 給油栓が燃料に浸かっている。 | 給油栓が燃料に浸からないよう角度を変更する。 |
| | タンクキャップブリーザーの取付不良。 | タンクキャップブリーザーの取付状態を確認する。 |

※＊印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

株式会社 共立

〒198－8711　東京都青梅市末広町1－7－2　TEL.0428-32-6181/FAX.0428-32-6175

北海道共立エコー株式会社
〒004－0041　札幌市厚別区大谷地東1－2－20　TEL.011-891-2249(代) FAX.011-892-6722

東北共立エコー株式会社
〒984－0002　仙台市若林区卸町東5－1－50　TEL.022-288-0511(代) FAX.022-288-0511

両毛共立エコー株式会社
〒321－0983　宇都宮市御幸本町4736－7　TEL.028-661-0431(代) FAX.028-663-3203

東部共立エコー株式会社
〒198－0025　青梅市末広町1－7－2　TEL.0428-32-1091(代) FAX.0428-32-1104

中部共立エコー株式会社
〒452－0031　愛知県西春日井郡枇杷島町宮前町1－39　TEL.052-502-4111(代) FAX.052-501-6415

西部共立エコー株式会社
〒701－0221　岡山市藤田556－159　TEL.086-296-5911(代) FAX.086-296-5941

九州共立エコー株式会社
〒816－0943　大野城市白木原5－3－7　TEL.092-573-5361(代) FAX.092-575-0612

エコーレンテックス株式会社
〒198－0025　東京都青梅市末広町1－7－2　TEL.0428-32-6777(代) FAX.0428-32-6778

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。